

## 協定校留学報告書

記入日	2025/01/26
学部・学科	農学部地域総合農学科農業科学コース
学年	3年
(留学開始時の学年)	3年
留学先大学・国名	静宜大学(台湾)
留学開始・終了時期	2024年 9月 ~ 2025年 1月 (5カ月)

### 1. 留学前について

① 海外留学しようと思った理由は何ですか
<p>今までと全く違う環境で、新しいことを学びたかったからです。知っている方もいるかもしれませんが、私が所属する農学部阿見キャンパスは、農場を除けばとても規模の小さなキャンパスです。そして、生徒は皆農学部です。日替わりでやって来るキッチンカー以外は、何の変化も無い場所で、それでいて授業や学食ではいつも同じ人を見かけました。海外留学生や転入生はめったに来ません。必修科目などは全て農業とその関連科目です。基盤教育科目までもが農業関連ばかりでした。要するに、阿見キャンパスと農業の勉強に飽きていました。農学部としてダメだとは重々承知していますが、実際はそう思っていました。</p> <p>そんなとき、以前からなんとなく興味を持っていた海外留学を利用して、この状況を自分で変えようと決めました。問題は「新しいこと」を何にするかでしたが、もともと中国の音楽が好きで初級中国語を履修していたので、その縁もあって中国語の勉強をしたいと思います。</p>
② この協定校に決めた理由を教えてください。
<p>中国語を初心者レベルから学べるプログラムがある、かつ、中国ではない場所だから、です。後者は大変個人的な理由です。特に気にしない方なら、中国にも協定校があるのでご検討ください。</p>
③ 留学の準備はいつ頃開始しましたか。
<p>留学の開始時期の1年前、すなわち2年次の10月頃です。この時期に行われる交換留学説明会が本格的なスタートポイントになりました。交換留学の応募と留学用の奨学金への応募、単位の取得状況の確認、所属する研究室との兼ね合いの確認、TOEFL iBTの受験、現在給付を受けている奨学金がどうなるかの相談などを行いました。</p>
④ TOEFLの受験対策など、語学の準備はどのようにしましたか。
<p>TOEFL iBTを受験しました。静宜大学への留学に語学の必須要件はありませんでしたが、「TOEFL iBT 61以上推奨」と書かれていたので、実力を知るために受けました。大学の図書室にある対策本を使って勉強しました。</p> <p>一方で中国語の勉強については、1年次の後学期に初級中国語を履修しました。ただ、当時は留学に興味があったわけではなく、単純に中国語を学ぶのが面白そうだったから履修を決めました。それから留学までは、中国語の勉強はほとんどしませんでした。</p>
⑤ 単位や教職、就職活動等に関して、留学前にしておいたほうがいいことがあれば教えてください。
<p>単位は取れる時に取れるだけ取っておくと良いと思います。私の場合、卒業に必要な残りの単位が4年次にある「卒</p>

業論文」と「ゼミナール」のみ、という状況で留学に行きました。単位の心配をしなくて良かったので、より充実した留学生活を送れました。それも、1年次や2年次に多くの授業を履修していたからできたことでした。

就職活動については、少し早めの行動を意識すると良いと思います。特に対面で行われるインターンシップには気を付けました。9月から留学が始まりますので、8月にインターンシップに行きました。8月のインターンシップの応募は、6月～7月に終わらせることになります。そのため、私はその期間までに参加したいインターンシップを探しました。また、個人的なアドバイスですが、留学中に就職活動を行う心の余裕はほとんどありませんでした。留学前の就活のやる気があるうちに、企業説明会やインターンシップなどにたくさん行っておく方が良いと思います。

⑥ どのような保険に加入しましたか。( )に○をつけてください。

- a. 留学先大学が指定した保険 ( )
- b. 個人の保険のみ ( ○ )
- c. 大学指定の保険と個人保険の両方 ( )

⑦ 予防接種は必要でしたか。( )に○をつけてください。

- a. はい ( ) 具体的に：
- b. いいえ ( ○ )

⑧ 留学先への入国手続きについて、どのように準備しましたか。

(査証申請手続き等)

ビザ(査証)の取得は、6月末にビザ代行を行っている会社に依頼して取得しました。本来は、東京にある「駐日経済文化代表処」という場所に行って申請をします。しかし、営業時間が平日のみであり、私にも毎日授業がありましたので、自宅でもできる代行という選択をしました。手続き内容を簡単に説明しますと、まず私から会社のほうにパスポートや証明写真、入学許可書、在学証明書などを郵送しました。その後、会社側のほうでビザの取得が終わると、私の家に書類やビザが記載されたパスポートが郵送されました。かかった日数ですが、依頼の連絡をしてから質問のやり取りと審査期間を経て、およそ1か月後に手元に戻りました。料金は手数料等含め5万円ちょうどでした。

## 2. 留学先での勉強について

① 留学先で履修した科目名、時間数、授業内容についてなるべく詳しく教えてください。

私が履修した科目は、中国語コース、基礎日文習作(一)、日本商務文化禮儀の3つです。

50分の授業と10分の休憩で1コマです。

【中国語コース】

1日3時間、週15時間のコースです。私のクラスでは午後1時から午後4時まで行われました。私のクラスとは別に午前9時から午前12時までのクラスもありました。ただ、時間帯は自分で選ぶことができません。留学前に中国語の習熟度についてのアンケートがあり、その回答に基づいてレベル別にクラス分けされます。私が参加したのは一番レベルの低い中国語のクラスだったので、ピンインから教えてもらいました。クラスメイトは私を含めて10人でした。教科書の内容を進めつつ、先生が生徒一人ずつに問題を出し、私たちが口頭で答えるという授業スタイルでした。私は、授業というよりも会話や雑談に近いと思いました。授業中でも生徒からの質問が盛んで、私も彼らに影響されてよく質問していました。半年で買い物や料理の注文などがスムーズになり、簡単な日常会話なら楽しめるようになりました。

### 【基礎日文習作(一)】

日本語学科の生徒が日本語の作文を勉強するための授業です。日本語で行われます。なぜ日本人である私が参加をしたのかというと、日本語学科の先生に、この授業に参加すれば日本語を学ぶ台湾人の生徒と交流ができるよ、と教えてもらったからです。私も台湾人の友達が欲しかったので履修を決めました。授業中では、台湾人の生徒が日本語の文章を書いている傍らで、私は同じテーマで中国語の文章を書きました。書き終わった後は、お互いに文章の添削をしました。同年代の台湾人に中国語を添削してもらえて、とても勉強になりました。授業の前後では、自己紹介をし合ったり、お昼ご飯を一緒に食べに行ったりしました。台湾人の友達もできたので、本当におすすめできる授業です。

### 【日本商務文化禮儀】

日本語学科の生徒が日本のビジネスマナーについて学ぶための授業です。履修を決めた理由は上と同じです。こちらの授業では、日本語学科の生徒とマナーを実践したり、先生から出されるクイズの答えを一緒に考えたりしました。正直、私も日本のマナーをほとんど知らなかったので勉強になりました。また、日本のビジネスマナーを通して、台湾のマナーもよく学ぶことができました。例えば、腕時計をプレゼントに送ってはいけなく、ご祝儀の金額は偶数のほうが良い、などです。日本語学科の生徒に中国語で話しかける機会は常にあったので、習った中国語の実践にぴったりな授業だと思いました。

### ② 授業履修の際に、注意したほうがいいことがあれば、なるべく具体的に教えてください。

そんなに多くの科目を履修しなくても良いと思います。中国語を学びたいだけの人は中国語コースだけでも良いと思います。毎日新しい単語や文法は出てきます。教科書には載っていない表現もたくさん教えてくれます。それらの漢字と発音と意味をすべて自分のものにしようと思えば、多くの時間を費やすことができます。台湾人や他の留学生と食事やでかけることも多くなると思いますので、授業で予定を詰めなくても充実した留学生活を送れると思います。

また、中国語コースは留学前に申請して受けるもので、静宜大学の履修登録システムでは登録できない科目になっています。それ以外の授業は自身で履修登録をしますので、静宜大学に留学したい方は心に留めておいてください。

また、注意したほうがいいことでは無いのですが、履修登録はとても安心した環境でできました。現地に着いてから数日後、日本人の交換留学生だけがパソコン教室に集められ、日本語学科の先生と生徒に見守られながら履修登録をしました。授業の難易度や各先生の特徴を彼らに聞けるので、この時に中国語以外の授業を決めるのもアリです。

### ③ 授業に関して、困ったこと、うまくいったこと、努力したことなど、教えてください。

復習が大事だと思います。次の授業についていきやすくなったり、語彙が増えた分先生との中国語の会話をより楽しんだりすることができます。ただ、留学中は寮の部屋の中でも、外に食べに行っても、遊びに行っても、中国語を使う機会がたくさんあります。個人的な復習勉強ももちろん大切ですが、会話を通して復習もできますので、楽しんで復習できるはずです。

また、11月になると中国語コースの各クラスの代表一人が、他の中国語を学ぶ留学生達の前でプレゼンテーションをするというイベントがありました。静宜大学で中国語を学びたい方には、ぜひ参加してほしい行事です。大会というわけではなく、どれくらい話せるようになったかを披露するための発表でした。幸いなことに私も参加させていただきました。発表に向けて、担当の先生が文章を添削してくれたり、事前に自分のクラスで発表練習をしたりしました。プレゼンテーションの練習を通して、新しい単語を覚えたり、発音を気を付けたり、長い文章をスムーズに読む力が鍛えられたりしました。とても緊張しましたが、本当に良い経験だったと思います。

それと、英語の筆記体を読むのに苦労しました。というのも、私が受けた中国語の授業には中国語の単語テストがあっ

たのですが、訳を英語で回答しなければいけませんでした。その際、アルファベットを母国語で使っている人達は筆記体を書いてきます。その後、隣同士で解答用紙を交換して採点し合うのですが、私は彼らの筆記体が読めず少し苦労しました。それからは筆記体を読むために、私も筆記体を練習して形を覚えました。もし余裕があれば、筆記体を書ける・読めるようにした状態で留学してもいいかもしれません。

**[前期] 時間割(1コマ1時間だとして)**

	月	火	水	木	金
1					
2			基礎日文習作(一)		
3			基礎日文習作(一)		
4	中国語	中国語	中国語	中国語	中国語
5	中国語	中国語	中国語	中国語	中国語
6	中国語	中国語	中国語	中国語	中国語
7		日本商務文化禮儀			
8		日本商務文化禮儀			

**3. 留学先での生活について**

① 大学がある町やキャンパスの雰囲気はどうでしたか

まず町についてですが、大学生活に不足の無い町という印象でした。食事の選択肢はたくさんありますし、生活用品を買える場所も揃っています。少し歩けばたくさんのレストランが並ぶ通りがあり、週に3回夜市が近くで開かれます。ドラッグストアやスーパーマーケット、ホームセンターのようなものも、レストランと同じ通りにありました。一方で、服を買う場所や観光できる場所はほとんどありません。ただ、バスに30分乗れば、ガイドブックにも載るような観光地や商業施設に行けます。そういうわけで、大学で生活するには十分な町だと思いました。

キャンパスはとても広くて、施設が充実していました。茨城大学の2倍以上の規模だと思ってもらえば幸いです。坂が多いのが少し大変でしたが、それ以上にレストランやジムなどの施設の充実ぶりに驚きました。定期的に露店がやって来たり、マーケットが開かれたりと、大学内で楽しめることがたくさんありました。

② 留学中はどこに住んでいましたか。

- a. 寮 ( O ) : 何人部屋でしたか ( 4 人 )
- b. アパート ( ) : 何人部屋でしたか ( 人 )
- c. ホームステイ ( ) : 何人部屋でしたか ( 人 )
- d. その他 ( ) 具体的に :

③ 住むところはいつ頃、どのように申し込みましたか？また、どのような選択肢がありましたか？

派遣先大学への応募をするとき(5月末)に申し込みました。指定されたフォーム内で選択肢から選びました。私は学内の寮の4人部屋を選びました。どの寮に住みたいかは選べませんでした。他には学外で住むという選択肢がありました。ただ、私はあまり学外の住居について知りません。希望者は留学生のコーディネーターにメールをすることになっていました。予想で申し訳ありませんがそちらで相談の上、住居を決定するのではないかと思います。

④ 住環境（建物の場所、お部屋の間取りや設備、ルームメイト等）はどうでしたか。

寮は大学の敷地にあります。寮の名前は希嘉學苑と言います。教室へは歩いて 10 分、目の前の食堂までは 5 分で行けました。部屋のドアを開けると人が一人通れる通路を中心として、左右に 2 つずつ机があります。机の上にはベッドがあり、ベッド横の階段を上って行きます。エアコンは冷房のみで、お金を払った分だけ使えます。シャワー室や水道、洗濯機、トイレなどは共用のスペースにあります。普通にきれいでした。ただ、洗濯物を干す場所が少なくとても困りました。服を乾かすための部屋があるのですが、常に他の人の洗濯物でいっぱいでした。一応部屋の外にもハンガーをかける場所がありましたが、風がとても強いので、吹き飛ばされないか心配でした。

ルームメイトは、台湾人 2 人、他の日本人留学生 1 人、そして私でした。台湾人についてですが、とても親切でした。私はそのうちの 1 人と特に親しくなり、その後の留学生活でとても助けになりました。飲食店の席の予約を代わりにしてくれたことがありました。ここで一つアドバイスです。アイマスクを持って行ってください。私は留学中に買いました。ルームメイトの 1 人がよく夜遅くまで机の上の電灯を付けていたのですが、上のベッドで横になっていてもとてもまぶしく感じました。本人に言いづらい環境もあるかと思いますので、ぜひアイマスクを持って行ってください。

それと、12 月でも寝ている時に耳元に蚊が寄って来て、大変ストレスでした。対策できる物を持っていれば、持っていくのが良いと思います。

⑤ 食事はどうしましたか。

- a. 大学・寮のミールプラン ( )
- b. 主に外食 ( ○ )
- c. 自炊と外食が半々程度 ( )
- d. その他 ( ) 具体的に：

(補足説明)

台湾では外食文化が根付いています。昼ご飯や夜ご飯は言うまでもなく、朝ごはん屋も多くあります。私は起床した後、たまに学内の朝ごはん屋に行って買っていました。

⑥ 留学先で他の留学生や現地学生とどのように交流を深めましたか。

他の留学生とは、買い物や食事、スポーツを楽しみました。彼らとは空港や留学生向けのオリエンテーションで知り合っ  
て連絡先を交換しました。それからは、一緒に出掛けたり食事をしたりバドミントンをするようになりました。みんな出身国はバラバラでしたが、英語を使えばみんな会話に参加することができます。このときに英語の強みを感じました。

現地学生とは、イベントや授業、食事を通して交流しました。イベントというのは、日本語学科の先生が主催する、日本人留学生と日本語学科の台湾人学生の交流を目的とした企画です。週に 1 回行われ、台湾の伝統菓子と一緒に作ったり、日本の伝統料理を作ったり、中間テストに向けた勉強会なんかもありました。このイベントを通して本当に多くの台湾人と親しくなりました。授業では上述した通り、文章の添削をし合ったり、これ中国語で何て言うの？と聞いたりと比較的真面目な交流をしました。食事では、知り合った台湾人一人と私の 2 人きりで行くことが多かったです。ゆっくり会話できる環境だったので、落ち着いて中国語を話すことができました。

また、寮の台湾人ルームメイトともいろいろ話しました。ゴミの捨て方や大学内のイベント、テストについてなど、たわいのない会話をしました。運が良いことに、一人の台湾人とは同じ趣味を持っていて、それがわかったときは盛り上がりました。

アドバイスですが、留学前にInstagramと Facebook のアカウントは用意しておくが良いです。台湾人だけでなく留学生ともInstagramで連絡先を交換しました。Facebook は授業で使いました。

⑦ 余暇や長期休暇はどのように過ごしましたか。

旅行です。毎週のようにどこかに遊びに行きました。お寺、夜市、茶館、人形劇、博物館、ショッピングエリアなどなど。そのうち何度かは、大学から案内されるツアーに参加しました。費用も大変安く、学校からツアーバスが出ていました。そのおかげで、台湾の様々な文化や食事を解説付きで体験することができました。

留学期間の最初の頃は、他の留学生や台湾の友達と一緒によくでかけていました。終盤にかけては、一人でできることが増えてきたので、よく一人で旅をしました。友達もその頃には、やりたいことや行きたい場所がバラバラになっていました。私は日本で買っていたガイドブックを持ち歩いて観光地を巡っていました。留学に来る前には、一人で台湾を渡り歩けるようになるなんて想像もしていなかったので、とても成長を感じました。

⑧ 健康管理や危機管理で注意したことについて、アドバイスがあれば具体的にお願いします。

風邪薬を持っていったほうが良いです。私は風邪に一度かかりました。4 人部屋に住んでいたのでもわりに配慮しつつ治すのが大変でした。薬を持っておいてとても安心したので、風邪になった後に必要な物は準備しておいてください。たかが風邪ですが、かかるとやはり辛かったです。

また、食事バランスを意識しないと、栄養が偏りがちでした。というのもラーメンだけ、肉とご飯だけといったメニューが多かったです。特に野菜が不足しがちです。どのお店に行けば野菜を摂取できるのかを、グーグルマップで各店のメニュー表を見ながら探しました。台湾の友人たちにも聞きました。

さらに、バイクは平気で歩道を走ります。後ろを向いたらいつの間にかバイクが近づいていた、なんてこともよくあります。歩道でも事故が起こりそうになるので、外に行ったら基本的にずっと気をつけてください。

⑨ 文化、習慣、宗教の違いなど、生活全般（衣食住）に関するアドバイスがあればお願いします。

トイレが一番驚きました（女子トイレのみ言及します）。トイレットペーパーは基本的にありません。自分で常に持ち歩くこととなります。また、トイレットペーパーを流せないトイレも多くあります。デパートなどでは日本と同基準のトイレが多いですが、それでも常にストックしておいてください。ドラッグストアやスーパーマーケットなどで売っています。使用したトイレットペーパーは、基本的にトイレ横の大きなゴミ箱に入れます。蓋の無いゴミ箱が多いため、臭いが充満しやすいです。また、台湾人の中には、洋式トイレに足を載せて用を足す方もいます。その場合、便座に靴跡や土が残っているので、軽く確認してから座ってください。

また、台湾は物価が安いというイメージを持つ方もいると思いますが、そうでもなかったです。確かに、外食は 1 食 500 円未満で食べることができますが、お腹いっぱい食べるにはもう少しかかります。また、「牛肉麵」や「小籠包」などの名物は全体的にもっと高いです。洋服や薬、洗剤、文房具などは日本と同じくらいの値段です。100 円ショップのような店が無いので、ノートやコップなどの生活用品を買う時はむしろ日本より高かったです。

#### 4. 留学費用について(差支えない範囲でお答えください)

※各費用の下の空欄には補足事項をご記入ください。

##### 留学前

査証申請費	50,000 円
ビザ代行だったため高かったです。	
渡航費(往路航空運賃)	47,160 円

JAL です。	
海外旅行保険代（出発前に日本で加入したもの）	28,720 円
OSSMA 会員費（21,300 円） + 上乗せ海外旅行保険 B プラン(7,420 円)です。 茨城大学から指定されました。	

### 留学中（台湾ドルから日本円に直しているの、おおよその値段です）

授業料（有料コースを受講の場合）	0 円
授業料以外の学費（教材費や登録料）	
	9,000 円
教科書 3 冊とワークブック 3 冊を買いました。すべて中国語の授業のためのものです。 他の授業では必要ありませんでした。	
現地で加入した保険料	なし
住居費（寮費）	
	74,450 円
大学の事務所で支払いました。クレジットカードで払うと、上記の値段 + それなりの額の手数料を持っていかれました。現金で払うのをおすすめします。	
住居費（寮費以外の費用、光熱水料やインターネット）	1,200 円
冷房代です。それ以外の費用は寮費に入っています。	
食費（自炊・外食の有無）	月 30,000 円
通信費（SIM カードや現地でスマホ購入等）	
	15,000 円
180 日分の SIM カードを購入しました。静宜大学内の本屋さんで買いました。	
交通費（通学に必要なバスや休日市内での公共交通機関）	月 200 円
市役所に行って登録をすると、市内のバスは 10km まで無料。10km の範囲内のバス停で降り、次のバスに乗れば、走行距離がリセットされてさらに 10km 無料になります。電車賃もとても安いです。	
娯楽費（国内旅行に行ったり）	200,000 円
その他生活費	
	月 5,000 円
シャンプー、洗剤、トイレトペーパー、ゴミ袋、文房具など	
渡航費(復路航空運賃)	37,611 円
茨城空港直通のタイガーエアライン。ちょっと良い席を予約しました。	
留学先でのお金の管理方法（クレジットカード、デビットカード、現地での口座開設等）	
<p>台湾はまだ現金が主流です。手持ちの現金が少なくなると、デビットカードを使って大学内の ATM から現金を引き出しました。クレジットカードでは口座からの引き出しができません。代わりに「キャッシング」という名の借金をすることになります。デビットカードを持っていない人はつくるのをおすすめします。</p> <p>私は常陽銀行のデビットカードを留学前につくりました。「VISA」のマークがある ATM ならどこでも引き出せます。</p>	

## 留学経費の負担について

留学のための奨学金等や助成金を利用した場合は以下もご記入ください	
奨学金名	茨城大学協定校派遣留学奨学金
応募方法	申請書、両親の課税証明書、世帯全員分の住民票をメールに添付して送信しました。送り先は、グローバル教育センター指定のメールアドレスでした。交換留学生の募集と同じタイミングで奨学金の募集も開始されます。

## 5. 今後の進路等について

① 卒業時期について教えてください。(わかる範囲で結構です) ○をつけてください。
a. ( <input type="radio"/> ) 4年で卒業予定
b. ( <input type="checkbox"/> ) 卒業は延期する予定 (延長予定期間: )
② 就職・進学のための活動について教えてください。(留学中にしたこと、留学後の予定など)
留学中には、メールやオンライン通話で就職相談をしたり、行きたい会社の求人票を比べたりしました。また、帰国後に行くインターンシップの応募もしました。時間に余裕があるときは、茨城大学のキャリアサポート室が実施している講座のアーカイブ動画を少しずつ視聴しました。会社説明会や選考は参加しませんでした。 今後は1、2月中にさらにインターンシップに行き、就活を進めます。

## 6. 留学について

① 留学を終えての感想を教えてください。
心の成長を感じました。最初は中国語で挨拶もできない状況で留学に行ってしまう、店員さんやルームメイトなど多くの人に手間取らせてしまいました。食べ物を注文したり、物を買ったりするのも肩に力が入り、日本では当たり前できていたことが、海外だとこんなにもエネルギーを使うものなのかと感じました。しかし、次第に中国語で様々な表現ができるようになるにつれ、台湾人との会話の中で「私の中国語が通じた！」という成功体験が増えていきました。また、お店にて全て中国語でやり取りをして買い物も済ませた後は、自分が台湾に馴染んでいるように感じて、ささやかながら幸せでした。農学部で中国語にほとんど縁の無かった自分が、初めての台湾で、新しい言葉で生活することができました。これほどことができるのであれば、日本で多少の困難があっても乗り越えられると思います。それぐらいの心の強さを得たと思います。 また、中国語を勉強しに行きましたが、自分の英語のレベルの低さを実感しました。留学前は、これまで英語の授業やテストもあまり苦労せず、TOFEL iBT60以上を獲得したため、授業はついていくことはできるだろうと思っていました。確かに生活はできましたし、先生の言っていることはわかりました。しかし、他の留学生達と会話をする中で、私は悔しい思いをたくさんしました。彼らは英語を母国語のように話す一方で、私はあまり深い会話ができませんでした。また人によって話す英語に違いがありました。アメリカ人の話す英語、インド人の話す英語、ベトナム人の話す英語などは聞きやすさも全く違いました。もし留学に行かなかったら、私は自分の英語に変な自信を持ったまま生きていくところでした。留学に行ってこのような刺激を受けたおかげで、今後も英語の勉強に力を入れようと思いました。そして、いろんな国の人が話す英語もたくさん聞いてみようと思いました。
② 留学して、何が変わったと思いますか。
世界の見方が変わりました。台湾で生活する中で、この国では自分が外国人であり少数派であることを認識させ



られました。私はそこで無意識に日本を中心として世界を見ていたということに気づきました。また、様々な国籍の留学生達と実際に会う中で、世界は日本だけではないということを痛感しました。文字で書くと当たり前かもしれませんが、留学に行くと実感しました。

また、自分に自信がきました。上に書いたように、初めての国で新しく学んだ言語を使って4か月以上も生活できたという事実が、自分の可能性を証明してくれました。今後は中国語を独学で勉強したり、一人で海外旅行に行ってみたり、これから取り組む研究に関する勉強を極めたいと思います。

さらに、好みや考え方が変わりました。特に食事、料理、旅行に対する興味が変わりました。台湾にはおいしいご飯がたくさんありました。毎日、その日食べるご飯のことを考えているうちに、おいしい食事にこだわることになりました。それにつれて、今までほとんどやってこなかった料理をしたいと思うようになりました。さらに、旅行が好きになりました。今までは、長期休みがあっても、お金がかかるからと言ってあまり遠出することがありませんでした。しかし、留学ではたくさん出かける機会があったので、その楽しさがわかるようになりました。留学を通して嗜好まで変わるとは思っていなかったで、とても驚いています。

### ③ 留学を考えている人へのメッセージをお願いします。

ただ新しいことを学びたいという動機で、それでいて英語も中国語も国際ビジネスなども専門として学んでいない農学部でもできました。もし、国際コミュニケーションやビジネスを勉強している方や、中国語を仕事に活かしたいと考えている方は、私よりずっとはるかに為になる経験になると思います。逆に、私のように何も関わりの無い方でも、たくさん学べることはあるはずです。勇気がある瞬間は留学に申し込むときだけです。頑張ってください。

## 7. 留学中の写真



図 1. 寮「希嘉学苑」の外観



図 2. 寮の机



図 3. 寮の共有スペース



図 4. 寮の水道



図 5. 寮のシャワー室



図 6. 寮のトイレ



図 7. 寮の洗濯機と脱水機



図 8. ドライルーム



図 9. 食堂

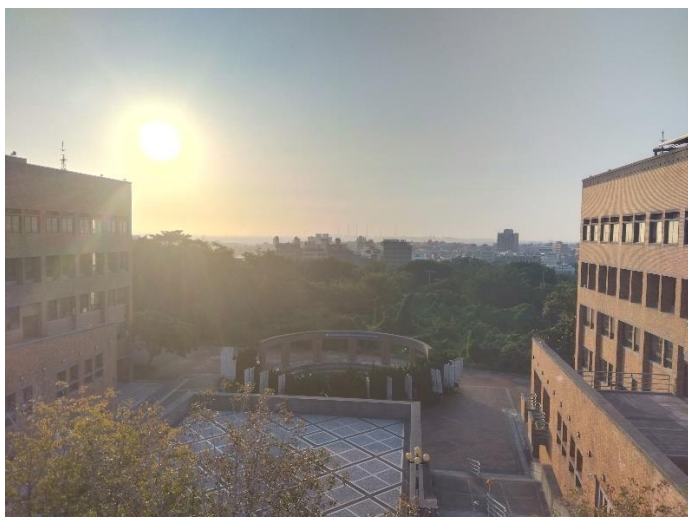


図 10. キャンパスの様子①

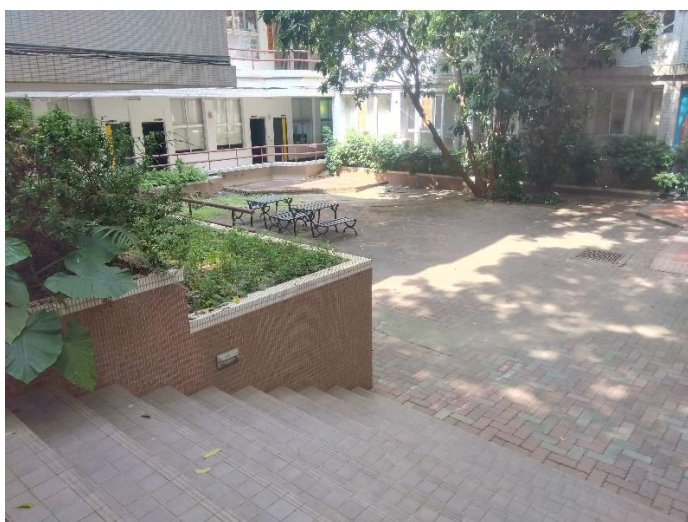


図 11. キャンパスの様子②